

## 2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330221037	教育方法論 (2025年度生～) Educational Methods	栗村 正仁			2	必修	1後期

## 科目の概要

本授業は、DP(6)にあたる「生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域・国際社会の課題解決に貢献できる」をベースとして教師の資質能力の育成を目指し、教育方法とその技術に関わる基本的概念・内容を理解させる。さらに、社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法に関する基礎的な知識・技能を身につける。

学修内容	到達目標
① 子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義について理解する。 ② 教育方法の基礎理論と基礎技術を理解する。 ③ 学習指導案の基本的な要素と書き方について理解する。 ④ ICT を活用する意義や理論、学習指導や校務に位置づけて説明できることについて理解する。 ⑤ 情報活用能力を育成する意義及び育成方法を身につける。	① 子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義について説明できる。 ② 教育方法の基礎理論と基礎技術を説明できる。 ③ 学習指導案の基本的な要素と作成の流れを理解し、書き方を身につけることができる。 ④ ICTを活用する意義や理論を理解し、学習指導や校務に位置づけて説明できる。 ⑤ 情報活用能力を育成する意義及び育成方法を身につけることができる。

## 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

## 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	自分自身の学校生活の経験、実生活などの様々な関心と結びつけながら、学修活動に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	グループ討論時における発表等に、積極的かつ率先して取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	与えられた課題内容だけでなく、新たに自分自身で課題を見いだすことができる。
	計画力	
	創造力	学修課題等に対して、自分自身で柔軟で多様な考え方をもち取り組むことができる。
チームで働く力	発信力	グループ討論や全体発表において、自分自身の考えや意見を整理して表現することができる。
	傾聴力	グループ討論や全体発表において、自分自身の考えや意見と他者の考えや意見を比較しながら、最後まで聴き取ることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	授業内での遅刻や私語等、授業に支障をきたす行動を自分自身で自粛して、円滑な学修活動を心がけることができる。さらにグループ内での自分自身の役割を遵守することができる。
	ストレスコントロール力	

## テキスト及び参考文献

## 参考文献

日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年。  
 高橋純・寺嶋浩介編著『初等中等教育におけるICT活用』ミネルヴァ書房、2018年。  
 日本教育方法学会編『教育方法学辞典』学文社、2024年。

## 他科目との関連、資格との関連

本科目「教育方法論」は、教職科目として配置され、「教職入門(1年)」「教育原理(1年)」において基礎的理解を深め、その後に履修する「教育課程論(3年)」「総合的な学習の時間の指導法(3年)」において専門的理解を深め、「教育実習(4年)」において実践的理解へと発展させていく。  
 関連する資格：小学校一種

## 学修上の助言

## 受講生とのルール

教育方法学は、子どもたちと社会の未来に責任をもった教育者が研究し、つくり上げていく学問です（日本教育方法学会、2014）。この科目の履修を通して教育方法学の基礎を学び、将来、教育者となった皆さんが、子どもたちと社会をより良くする教育方法学を研究しつくり上げていくことを期待しています。

①遅刻3回で欠席1回とするとともに、授業開始後20分以上の遅刻は欠席扱いとする。  
 ②課題を提出したと認定されるには、提出期限等の指示を守る必要がある。  
 ③授業中に配布した資料は、一部を除き本学e-Learningシステム（Google Classroom）で配信する。欠席時における配布資料の補充や自主学修等で活用されたい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓	(獲得) 教育の方法及び技術・情報通信技術を活用した教育の理論と方法に関する基礎的な知識を獲得できる。(60%) (活用) 教育の方法及び技術・情報通信技術を活用した教育の理論と方法に関する今日的課題を抽出できる。(20%) (解決) 抽出した課題に対する改善策が提案できる。(20%)	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平常評価	小テスト		30	①	✓	毎回の講義で、小テスト（論述問題を含む）を実施する。 (獲得) 講義内で扱った用語・理論・概念が理解できる。(40%) (活用) 講義内で扱った理論を学校現場・教育の実践に当てはめて考えることができる。(40%) (解決) 講義内容について、自分自身の意見や考えを持つことができる。(20%)
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		レポート		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①	✓	(課題発見力) 子どもの発達支援について自分なりに疑問を見つけることができる。 (創造力) 学修課題等に対して、自分自身で柔軟で多様な考え方を持って取り組むことができる。 (発信力) 必要な時に、自分自身の意見や考えを述べたり、発表したりできる。 (傾聴力) あいづちやうなづきなど話を聞く姿勢ができています。 (規律性) 遅刻や私語等、授業に支障をきたす行動を自分自身で自粛して、円滑な学修活動を心がけることができる。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>●到達レベルS</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の理論及び指導技術の基礎を理解し、基礎的な学習指導理論及び教育方法・技術の今日的視点を踏まえた学習指導案の書き方を身につけ、情報機器を活用し、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫された授業の意義や方法について構造的に説明することができている。</li> </ul> <p>●到達レベルA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の理論及び指導技術の基礎をもとに、基礎的な学習指導理論及び教育方法・技術の今日的視点を踏まえた学習指導案の書き方を身につけ、情報機器を活用し、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫された授業の意義や方法について諸部分を構造的に説明することができている。</li> </ul>	<p>●到達レベルB</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の理論及び指導技術のおよその理解をもとに、基礎的な学習指導理論及び教育方法・技術の今日的視点を踏まえた学習指導案の書き方を身につけ、情報機器を活用し、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫された授業の意義や方法について説明できている。</li> </ul> <p>●到達レベルC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の理論及び指導技術の一応の理解をもとに、基礎的な学習指導理論と教育方法・技術の今日的視点を踏まえた学習指導案の書き方を身につけ、情報機器を活用し、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫された授業の意義や方法についてある程度説明することができている。</li> </ul>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	ガイダンス 教育方法学とは何か ・「教育方法論」を学ぶ意義を理解する	・講義 ・グループワーク ・発表 ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出 ・質疑応答	教育方法学とは何かを理解できる。	(予習) シラバスに目を通し、本授業全体の概要を理解する。 (復習) 授業で学修した重要用語を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	教育方法の歴史的発展—西洋— ・西洋における教育方法の歴史的発展について学ぶ	・講義 ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	近代西洋における代表的な教育方法理論を理解できる。	(予習) 高校までの世界史の内容を確認する。 (復習) 授業で学修した教育方法理論の特徴を整理する。	180	主体性 課題発見力 創造力 規律性
3	教育方法の歴史的発展—日本— ・日本における教育方法の歴史的発展について学ぶ	・講義 ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	日本における代表的な教育方法理論を理解できる。	(予習) 高校までの日本史の内容を確認する。 (復習) 授業で学修した教育方法理論の特徴を整理する。	180	主体性 課題発見力 創造力 規律性
4	教育方法・技術の今日的視点 ・学習指導要領を中心に、社会の変化に伴う教育の新たな考え方、教育内容、教育方法・技術等について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・発表 ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	「今の教育」の在り方と、それを支える理念やスキルについて理解できる。	(予習) 自身が児童・生徒時代に受けた授業や指導方法をイメージする。 (復習) 社会の変化と教育方法・技術の関係を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	教科の役割と意義 ・教科の定義や存在根拠、人間形成における役割や意義、教科学習の今日の特徴について学ぶ	・講義 ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	教科の枠組みや、それを変化させる要因を理解することができる。	(予習) 学校に教科が存在する理由について、自分の考えをまとめる。 (復習) 授業で学修した教科の役割と意義に関する内容を、各教科の視点から考える。	180	主体性 課題発見力 創造力 規律性
6	授業の諸要因と授業設計① ・授業を構成する要素(目標、内容、方法、教材教具、組織、学習評価)について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	授業はどのような要素から構成されているのか理解できる。	(予習) 教師は授業をどのように設計しているのか考える。 (復習) 授業を構成する要素の相互関係を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	授業の諸要因と授業設計② ・授業を行う上での基礎的な技術(話法、板書等)や、授業の準備—計画—実施—評価、実践の在り方(教育的タクト)について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	教育的タクトの意義を理解できる。	(予習) 教師の指導技術にはどのようなものがあるか考える。 (復習) 教育的タクトについて整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	授業の諸要因と授業設計③ ・学習指導案の役割を理解し、基礎的な学習指導理論及び教育方法・技術の今日的視点を踏まえた学習指導案の書き方を学ぶ	・講義 ・演習 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	学習指導案の役割と基本的な書き方を理解できる。	(予習) 学習指導案とは何かを調べる。 (復習) 各教科等における実際の学習指導案を分析する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	教育におけるICT活用の意義と理論 ・ICTの活用が求められる社会の姿や、ICT教育の概要と展望について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	ICTの活用の意義と在り方を理解できる。	(予習) ICTとは何かを調べる。 (復習) ICT教育の概要を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	ICTの活用の方法① ・教科指導における活用(特別支援教育含む)について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	ICTを活用した教科指導の基礎的な方法を身につけ、ICT活用は、各教科の授業に広がりや深まりをもたらすと同時に、教科横断型の授業の可能性を広げることが理解できる。	(予習) 教科指導におけるICT活用の事例を調べる。 (復習) 教科指導におけるICT活用方法を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	ICTの活用の方法② ・教科外や校務を含む様々な教育活動における活用について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	ICTを、校務を含む教科外の様々な教育活動に活用する方法を身につけるとともに、ICT化が教師の仕事にどのような影響をもたらすのか理解することができる。	(予習) ICTを有効に活用することで、軽減あるいは効率化できる教師の業務にはどのようなものがあるか考える。 (復習) 教科外や校務を含む様々な教育活動におけるICTの活用方法を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	ICTの活用の方法③ ・遠隔・オンライン教育における活用について学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	遠隔・オンライン教育におけるICTの活用方法について理解したうえで、広域交流型オンライン学習(広島大学教育ビジョン研究センター)の実践事例の意義を分析できる。	(予習) かつて自分が受けた遠隔・オンライン教育では、どのようにICTが活用されていたか考える。 (復習) 遠隔・オンライン教育におけるICTの活用方法を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	情報活用能力(情報モラルを含む)の育成のための指導法 ・情報活用能力(情報モラルを含む)の具体的内容及び各教科等の特性に応じた指導事例を検討し、基礎的な指導法を学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	情報活用能力(情報モラルを含む)の概要と指導事例を理解し、基礎的な指導法を身につけることができる。	(予習) 情報活用能力(情報モラルを含む)とは何か調べる。 (復習) 情報活用能力を育成するための指導法を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	プログラミング教育の理論と方法 ・プログラミング教育の理論と方法について理解するとともに、プログラミングを体験する	・講義 ・ICTを活用した実習 ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	プログラミング教育の概要及び情報活用能力の一つとしてのプログラミング的思考について理解し、簡単なプログラムを作成できる。	(予習) これまでに自分がどのようなプログラミング教育を受けてきたのか考える。 (復習) 簡単なプログラムを作成する。	180	主体性 課題発見力 創造力 規律性
15	システムの運用と管理 ・教育現場へのICT導入に伴う問題を視野に含めつつ、教師や学校は何をねらい、求められるのかを学ぶ	・講義 ・グループワーク ・Google Classroomを活用した資料の共有及び課題提出・フィードバック ・質疑応答	ICTを導入するうえでの外部人材や外部機関との連携及びICT環境整備の在り方並びにセキュリティの重要性について理解できる。	(予習) 教育現場へのICT導入に際して、どのような問題が生じるか考える。 (復習) ICT導入に際して、教師に課せられた課題を整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力